

## 医学系研究に関する情報公開

福島県立医科大学放射線医学講座では、本学倫理委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施します。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2020年6月 福島県立医科大学医学部放射線医学講座 関野啓史

### 【研究課題名】

CTガイド下針生検時の使用器具の違いによる正診率および合併症の検討

【研究期間】 2020年6月～2022年5月

### 【研究の意義・目的】

CTガイド下針生検は腫瘍の診断や治療方針決定のため、非常に重要な手技の一つです。生検において以前はセミオートマチックタイプの生検針が使用されていましたが、2017年8月より、アスピレーションタイプの生検針が当院で採用されました。アスピレーションタイプの生検針は従来のセミオートマチックタイプの生検針より採取される検体量が多く、少ない穿刺回数で十分な検体量が採取できるとされています<sup>1</sup>。しかし、正診率や合併症の比較検討についてはほとんど報告がありません。

今回の研究では今まで施行されてきたCTガイド下針生検手技のうち、セミオートマチックタイプの生検針を用いた生検結果と、アスピレーションタイプの生検針を用いた生検結果や合併症について比較検討を行い、臨床的な違いや有意性について考察することを目的とします。

### 【研究の対象となる方】

2012年4月から2020年3月に本附属病院で肺のCTガイド下針生検を受けた方を対象とします。

### 【研究の方法】

1. 上記対象者のCT画像を電子カルテ端末とPACSを用いて検索します。
2. そのうち、肺病変に対してCTガイド下生検が行われた症例を対象とします。
3. 対象となった症例をセミオートマチックタイプの生検針を用いた症例と、アスピレーションタイプの生検針を用いた症例とで分けます。
4. それぞれの症例に対して、生検を行った腫瘍のサイズや位置、生検回数や術後合併症を比較検討を行います。生検後に手術が施行された症例は、生検時の病理診断と術後標本の病理診断の検討を行い、正診率についても比較検討します。
5. セミオートマチックタイプとアスピレーションタイプ、それぞれの生検針を用いることによるメリットデメリットを統計学的に解析します。

### 【研究組織】

	(所属)	(職)	(氏名)
研究責任者	放射線医学講座	教授	伊藤浩
研究分担者	放射線医学講座	助教	関野啓史
研究分担者	放射線医学講座	准教授	石井士朗

### 【本研究に関する問い合わせ先】

本研究に関する御質問等がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計

画書及び研究の方法に関する資料を閲覧できます。

〒960-1295 福島県福島市光が丘1  
公立大学法人福島県立医科大学医学部放射線医学講座 担当 関野啓史  
電話:024-547-1334 FAX: 024-547-3789  
E-mail:sekino@fmu.ac.jp

【試料・情報の利用を望まれない場合の連絡先】

試料・情報が当該研究に用いられることについて研究対象者ご本人又は代理人の方に御了承いただけない場合には、研究対象者とはせずに試料・情報の利用、提供をいたしませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも研究対象者ご本人又は代理人の方に不利益が生じることはありません。なお、研究結果が既に医療系雑誌への掲載や学会発表がなされている場合、データを取り消すことは困難な場合もあります。

〒960-1295 福島県福島市光が丘1  
公立大学法人福島県立医科大学医学部放射線医学講座 担当 関野啓史  
電話:024-547-1334 FAX: 024-547-3789  
E-mail:sekino@fmu.ac.jp